

# イチゴのチビクロバネキノコバエ幼虫及び成虫に対する有効な薬剤

農業研究部

## 1. 研究の背景

本県のイチゴ栽培におけるチビクロバネキノコバエ*Bradysia difformis* Freyは、多発生時には幼虫がクラウン内部へ食入するため、新芽の伸長停滞や奇形果が生じ減収につながる。イチゴでは定植後に使用可能な農薬は限られており、有効な防除技術は確立されていない。そこで、チビクロバネキノコバエ幼虫及び成虫に有効な薬剤を明らかにした。

## 2. 研究成果の内容・普及のポイント

- ①チビクロバネキノコバエ幼虫に対して、ランネート45DF、カルホス乳剤、スミチオン乳剤（イチゴの露地栽培）、バリアード顆粒水和剤は高い殺虫効果が認められる（表1）。
- ②ランネート45DFおよびカルホス乳剤は育苗期の灌注登録があるため、他の害虫との同時防除剤として利用できる。スミチオン乳剤およびバリアード顆粒水和剤は、適用最上限の300L/10aを散布する。
- ③チビクロバネキノコバエ成虫に対して、モスピラン顆粒水溶剤はやや高い殺虫効果が認められる（表2）。

表1 チビクロバネキノコバエ幼虫に対する殺虫効果

系統名	供試薬剤	希釈倍率 (倍)	補正死亡率 (%) <sup>1)</sup>
有機リン	カルホス乳剤	1,000	100
	スミチオン乳剤	2,000	100
	トクチオン乳剤	1,000	86.7
	マラソン乳剤	2,000	16.7
ネオニコチノイド	バリアード顆粒水和剤	2,000	89.7
	モスピラン水溶剤	2,000	43.3
	ベストガード水溶剤	2,000	26.7
カーバメイト	ランネート45DF	1,000	100
	アーデント水和剤	1,000	36.7
合成ピレスロイド	ロディー乳剤	1,000	36.7
	マブリック水和剤20	8,000	17.2
	カウンター乳剤	2,000	80.0
IGR	ロムダンフロアブル	2,000	48.3
	ノーモルト乳剤	2,000	44.8
	マッチ乳剤	1,000	36.7
	マトリックフロアブル	2,000	23.3
BT	エスマルクDF※	1,000	20.7
	ゼンタリー顆粒水和剤※	1,000	10.3
ジアミド	フェニックス顆粒水和剤	2,000	10.0
	プレバソフフロアブル5	2,000	3.3
マクロライド	アフアーム乳剤	2,000	6.7
	ディアナSC	2,500	6.7
	スピノエース顆粒水和剤	5,000	3.3
	アニキ乳剤	2,000	3.3
その他	コルト顆粒水和剤	3,000	41.4
	チェス顆粒水和剤	5,000	6.7
	ウララDF	2,000	3.3
	プレオフロアブル	1,000	0
抗生物質殺菌剤	ポリオキシシAL水和剤	1,000	17.2
殺ダニ剤	ダニサラバフロアブル	1,000	0

※野菜類登録

1) Abbottの補正式で補正死亡率を算出 2) 試験は食餌浸漬法による。

表2 チビクロバネキノコバエ成虫に対する殺虫効果

系統名	供試薬剤	希釈倍率 (倍)	補正死亡率 (%) <sup>1)</sup>
ネオニコチノイド	バリアード顆粒水和剤	2,000	30.4
	モスピラン顆粒水溶剤	2,000	83.3
合成ピレスロイド	アーデント水和剤	1,000	42.0
	マブリック水和剤20	8,000	0.89
マクロライド	アニキ乳剤	1,000	31.7
	アフアーム乳剤	2,000	7.6
スピノシン系	スピノエース顆粒水和剤	2,000	14.4
ジアミド	プレバソフフロアブル5	2,000	0
	フェニックス顆粒水和剤	2,000	0.89
	ウララDF	2,000	21.9
その他	チェス顆粒水和剤	5,000	9.1
	プレオフロアブル	1,000	0.63
	展着剤 まくびか	3,000	17.9

1) Abbottの補正式で補正死亡率を算出

2) 試験は食餌浸漬法による。

## 3. 期待される効果

イチゴ栽培において他の害虫との同時防除の一環として、チビクロバネキノコバエの防除対策指導に資することができる。

## 4. 担当機関連絡先

農業研究部 病害虫チーム

TEL : 0974-28-2078

住所 : 豊後大野市三重町赤嶺2328-8